特定保健指導実施率の向上対策について
（宮城県蔵王町）

～令和２年度紹介事例～

宮城県保健福祉部国保医療課
東北厚生局管理課

宮城県蔵王町の概要

人　　口	11,705人
国保被保険者数	2,909人
加　入　割　合	24.85%

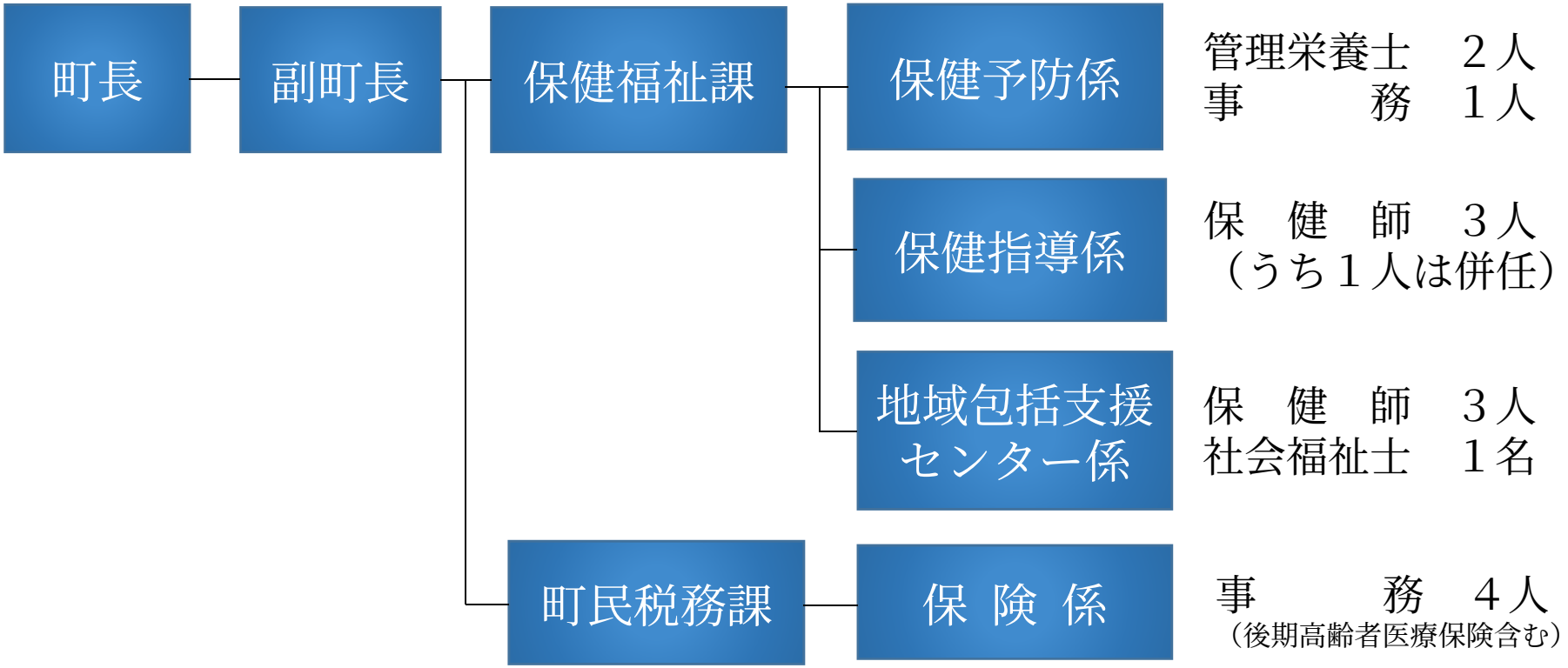
（令和2年11月30日現在）

○蔵王町は、東北の霊峰蔵王連峰の東麓、宮城県の南西部に位置し、約６割が山林・原野で占められており、町の中央を松川が貫流し、美しい渓谷の景観を作り出している。蔵王連峰に連なる高原地帯には貴重な野鳥などが生息し、自然の宝庫となっている。

○町の東部は良好な水田地帯であり、丘陵地を利用した果樹栽培も県下一の生産量を誇っている。また、高原育ちの新鮮な牛乳から作られるチーズなどは、品質の良さから全国的に人気である。

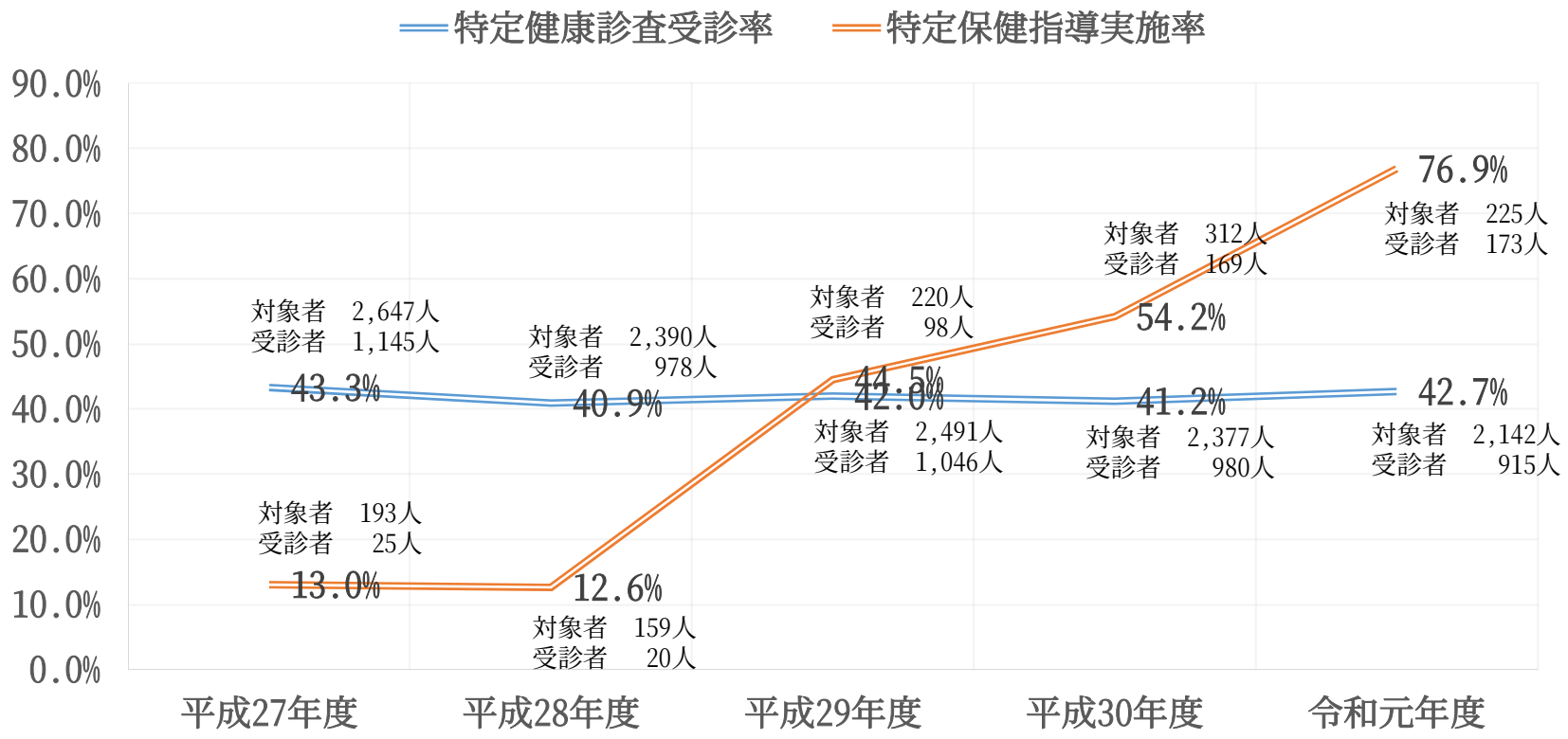
○観光面でも、県内有数の名湯「遠刈田温泉」を有し、毎年数多くの観光客や湯治客が訪れている。

蔵王町における保健事業の実施体制



・国保部門、衛生部門、委託事業所が連携を強化し、特定保健指導の実施率アップにより、町民全体の健康づくりを図っている。
・保健師及び管理栄養士等が健診会場での保健指導の動機付けや、結果通知を渡しながらの保健指導を行っている。

特定健康診査・特定保健指導の実施状況の推移



○特定健康診査受診率は42%前後の水準を保っている。
○特定保健指導実施率は、平成27年度、28年度は10%台だったものが、平成29年度から大幅に上昇し、令和元年度には約77%までアップしている。

特定保健指導実施率の向上対策

効果的な特定保健指導モデル事業への参加

○国保担当課、保健指導担当課、委託事業所で研修会に参加。課題も３者で検討。

（平成28年度）
「特定保健指導のプログラムの質」の評価と効果の出るプログラムの実施をテーマに講義、演習や情報交換会に参加。

（平成29年度）
「特定健診・特定保健指導事業」の評価について、講義や演習に参加。

（平成30年度）
「特定保健指導事業」の評価を中心に、講演や演習、事例紹介に参加。

特定保健指導実施率の向上対策

特定保健指導の概要

※特定保健指導は、住民の意識が高まるのを待っているだけでなく、住民の意識が高いうちにこちら（町）が動くことが重要。

○特徴
- ＢＭＩまたは腹囲で服薬なしの住民に健診会場で面談を実施。
- 腹囲計測の対象者に対し、健康づくりのチラシを配付。

○初回支援は健診会場で分割実施。初回支援以外に個別支援、集団支援を実施。
- 健診会場での生活習慣の振り返りと目標設定（動機付け）
- 健診結果返却時に訪問、来所面接、電話支援をし、目標の見直しを行う
- 個別支援（電話、手紙、メール支援）、集団支援（セミナー開催）

（参考）　特定健康診査の概要

受診環境の整備

・特定健診、基本健診（19歳～39歳）、後期高齢者健診（75歳以上）、肺がん結核検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診を同時に実施

実施体制

（集団健診）
・例年は８月（夏休みの時期）に各地区の小学校を利用して巡回健診を行ってきたが、令和２年度はコロナ禍により夏休みが短く会場が確保できなかったため、地域福祉センター１箇所で８月と10月に実施
・巡回健診の他に、夜間健診、休日健診、未受診者への二次健診を実施
・自己負担なし（無料）

（個別健診）
・白石市医師会の医療機関で約４ヶ月間実施
・令和２年度から無料化

被保険者への受診の働きかけ（広報、受診勧奨通知）

・集団健診について、実施場所・実施期間等を広報誌やホームページ、全戸配付のチラシで周知
・広報誌及びホームページ等で、個別健診の受診可能医療機関もあわせて案内
・医療機関においてもポスター等で周知
・受診対象者には受診票を送付（個別健診の受診先もあわせて案内）

(参考) 特定健診、特定保健指導以外の保健事業の概要

ウォーキングセミナー

・町民の運動習慣定着に役立つよう、ウォーキングの基礎や自分に合った歩き方を学べるプログラムを実施。

健活サポーター事業

・地域全体の健康づくりを推進するサポーターを養成するために開催。毎月テーマを変え、ミニ講話と運動を実施。

健康づくりセミナー

・生活習慣病の予防・改善に役立つ知識を身につけ、自身や家族の健康維持に役立ててもらうことを目的として実施。ミニ講話や旬のレシピ紹介、グループワーク等を行っている。

（参考）特定健診、特定保健指導以外の保健事業の概要

蔵王はつらつ長寿支援事業

・高齢者が生きがいを持って生活し、お互いに支えあえる地域づくりをしていけるよう支援をするもの。登録地区から依頼を受け、講話や体力チェック等を行っている。

生涯ピンピン教室

・高齢者に対し運動機能向上プログラム、認知症予防などのプログラムを提供し、要支援・要介護状態にならないよう、自立した生活を支援している。内容としては、水中運動や読み書き計算等のワークを実施している。

高齢者通いの場支援事業

・高齢者が自立した生活を継続するために地域に交流の場を創出することを目的に拠点となるサロンで脳トレや軽運動、レクリエーションなどを行っている。